



島崎弘幸

2022年12月7日

2022年12月5日。翌日は仕事なので、ビデオをセットしていつも通りの時間に寝たのだが、午後11時50分に何の違和感もなく自然に目が覚めた。そうなる0時から放送予定のベスト8を競う日本とクロアチア戦が気になった。寝てはられない。寒い夜だったが、のこのこ起き出して、最初から最後まで、隅から隅までテレビの前で観戦した。

日本代表 過去最強のチームか

結果は敗戦。携帯で見た朝のニュース記事に、森保監督のコメントが載っていた。

「・・・ボールを強く、狙ったところに決めていくことにおいては、日本と欧州であったり世界のトップを走るチームと差があるなど感じてきていました。今日の試合に関しては、相手GKは本当に素晴らしかった。もっと強く狙ったところに蹴れるから、駆け引きができる。今後日本サッカーのポイントとしていかなければいけない・・・(抜粋)」
(アルワクラ5日=スポーツ報知取材班)

結果から言えばその通りだと思います。スペイン戦で見せた堂安選手（以下敬称略）のシュートのようなスピードは、テレビ観戦で見る限り、一番手の南野にも、二番手の三笥にもありませんでした。それが止められた（あるいは止めることの出来た）理由だと思います。ただ、私は2002年の日韓共催FIFAワールドカップ以降、約20年間、日本代表の選手、チームを見てきて、今年ほど強いチームはこれまでになかったと感じています。

すでにプロのコメンテーターが、沢山の発言をしているので、素人が何か言うことはないのですが、一言、素人の感想を述べさせて頂けるなら、以前の日本代表チームは、中田や本田といった突出したスターを中心とするチームであったのが、今年（2022）のチームは、代表選手

全員が、昔のスター選手のレベルで、それが以前と違うところ、今回の活躍に見るチーム力だったと思います。

大半を占める海外組

今年の代表選手のうち、何人が、現在、ヨーロッパのプロチームに所属しているかは知らないのですが、ドイツのチームに所属している選手だけでも8人いるとドイツ戦の時に聞きました。他にもスペインの久保やイギリスの三笥など、海外でのプロの経験が、日本代表チーム（2022）の底力だったことは間違いないでしょう。

また、国内のチームから代表で選ばれた選手も、テレビで見る限り実力差を感じませんでした。多くの予想を覆して勝ったドイツ戦と、スペイン戦を見ると、前半45分と、後半45分では、全く違うチームのように思いました。2つの日本代表チームが戦っているのですから、それは強い。

前半、相手チームを走るだけ走らせて、後半は日本代表チームが走りに走って逆転する。似て非なる2つの日本代表チームが、欧州チームを相手に勝ったといっても過言ではないでしょう。森保監督の采配がびたりとはまって、逆転をして、玄人やサポーターだけでなく、それまでサッカーに関心の無かった人たちまでも巻き込んで、日本中が興奮しました。私は秘かに、ブラジルにも勝つのではないかと思っていました。

話を元に戻しますが、森保監督が「ボールを強く、狙ったところに決めていくことにおいては、日本と欧州、世界のトップを走るチームと差がある。」と述べたのは謙遜でしょう。私は今の日本代表は、個々の選手の比較でないなら、欧州の選手との差はないと思います。

ただ、あの大舞台で、スタジアムの大観衆（サポーター）を背負い、日本中の熱い期待を背負い、自らのプライドを背負ってフィールドに一人で立った選手の心境、重圧、緊張感は、代表選手でなくても分かります。そういう修羅場を何度もくぐって強くなるのです。

次ですよ。次。

□エピローグ

サッカーファンといえるかどうか分からない素人ですが、楽しかった。有り難う日本代表選手の皆様。

【 島崎弘幸 著書紹介 】

- ・40 歳からはじめる健康学：知っておきたい栄養の話 島崎弘幸 著（平凡社 2012.12）
- ・過酸化脂質・フリーラジカル実験法 五十嵐脩、島崎弘幸 編著（学会出版センター 1995.1）
- ・抗酸化物質：フリーラジカルと生体防御 二木鋭雄 ほか編著（学会出版センター 1994.6）
- ・活性酸素：化学・生物学・医学 二木鋭雄、島崎弘幸 編（医歯薬 1994.7）
- ・油脂の栄養と疾病 島崎弘幸、町田芳章 編（幸書房 1990.1）
- ・活性酸素：化学・生物学・医学 二木鋭雄、島崎弘幸 編（医歯薬 1987.7）

Back

元栄養学教授のコラム
〔島崎弘幸〕TOP へ

Home

HOME PAGE へ